

ライフプランニングの世代間比較

－バブル世代と就職氷河期世代の結婚、出産の意思決定－

慶應義塾大学大学院商学研究科後期博士課程
日本学術振興会特別研究員 DC1
萩原里紗

要旨

本研究は、バブル世代と就職氷河期世代の 2 世代は学卒時の景気の影響を受けて、その後のライフプランニングに違いが生じていると考え、女性の労働供給、結婚、出産の選択に関して分析を行った。本研究の結論は以下のとおりである。

本研究ではまず、賃金プロファイル、労働供給、結婚、出産に関して、バブル世代と就職氷河期世代の既婚・未婚女性を正規社員と非正規社員（アルバイト、パート、嘱託社員を含む）別、20 代、30 代、40 代別に示したグラフを作成し、バブル世代と就職氷河期世代を比較した。各世代の賃金プロファイルを比較すると、バブル世代は就職氷河期世代よりも初任給が高く、賃金が高い水準で推移していることがわかった。また、各世代の労働供給割合を比較すると、正規社員のケースで、両世代の 30 代において結婚や出産によって労働供給は減少しており、特に、その傾向はバブル世代で見られ、40 代になってからの労働供給の伸びは就職氷河期世代のほうが勝っていることも確認した。また、各世代の既婚者割合、第一子出産割合を比較すると、正規社員、非正規社員ともに、バブル世代よりも就職氷河期世代のほうが晩婚化、晩産化が進んでいることを確認した。

このように、賃金プロファイルから、バブル世代のほうが就職氷河期世代よりも初任給が高く、昇給しやすいことがわかっているため、両世代は意思決定に対する所得の弾力性に違いが生じている可能性がある。しかし、バブル世代と就職氷河期世代では、学卒時やその後の経済状況だけでなく、個人の考え方も異なることから、今回の分析ではこうした点を考慮した分析を行った。その結果、個人の異質性を考慮すると、バブル世代と就職氷河期世代はその他の世代と比べて、結婚や出産に対する所得の弾力性における統計的に有意な違いは見られなかった。

分類表コード：D、J

JEL 分類コード：C23、C25、J13